

2016年度版 ソフトバレーボール競技規則の改・修正点（詳解）

2016 年 3 月

公益財団法人日本バレーボール協会

審判規則委員会

■本年度の改・修正点

1 改正点

(1) チームの構成

1) トリムの部

コート内の選手を年齢区分によって、次のようにする。

- ① フリー・クラス : 18 歳以上の男女各2 人
 - ② ブロンズ・クラス: 30 歳以上の男女と40 歳以上の男女それぞれ1 人
 - ③ スポレク・クラス: 40 歳以上の男女と50 歳以上の男女それぞれ1 人
 - ④ シルバー・クラス: 50 歳以上の男女と60 歳以上の男女それぞれ1 人
 - ⑤ ゴールド・クラス: 60 歳以上の男女各2 人
- II-1 -(2)

2) レディースの部

コート内の選手は18歳以上と40 歳以上の女性それぞれ2人とする。

II-1 -(3)

年齢区分によるクラス分けをトリムの部にグループ分けし、フリー・クラス、スポレク・クラスをトリムの部に追加した。また、レディースの部は年齢区分を改正した。

(2) 競技の中断

特殊な事情による試合の中断

- 1) ボールがインプレー中でも、重大な事故が起きた場合、審判員は直ちに試合を止め、治療等の必要な措置を指示する。この場合、そのラリーは、やり直しとなる。
 - 2) 競技用具が破損した場合や、地震等のやむを得ない事象が発生した場合、審判員は直ちに試合を止め必要な措置を指示する。この場合、そのラリーはやり直しとなる。
- III-5 -(3)-1), (2)

重大な事故や、地震等の災害が発生した場合、試合の中断に関する措置を明確にすることにより混乱を避け、かつ、安全に配慮するための改正をした。

2 修正点

(1) 施設と用具

1) ネットおよび支柱

- ① 幅80cm のソフトバレーボール用ネットを用い、ネットの高さは、2m とし、コート中央で測定する。
- I-1 -(2)-1)

② 注解

支柱やネットは、バドミントン用のものを利用してよいが、支柱には補助器具を継ぎ足して規定の高さにする必要がある。

ただし、調整後、規定の高さとならない場合は、マイナス2cmまで認める。

I-1 -②

ネットの正しい設置を行うため、ネットの高さ測定箇所および高さ調整後の下限の範囲を明確にした。

(2) 競技参加者の権利と義務

注解 選手のユニフォーム(上下)はやむを得ない場合、色、デザインが違うものを着用してもよい。 II-2-①

選手のユニフォーム(上下)は、清潔で、チームにより統一された色と同じ形のものを着用することを原則とするが、着替え、準備が間に合わなかった等やむを得ない場合には、色、デザインが違った場合でもユニフォームとして容認する。

(3) 審判員とその主な責務

副審 権限

- 1) タイムアウトや選手交代の要求を許可し、その時間や回数をコントロールし、主審と当該チーム監督に2回目のタイムアウトおよび3回目、4回目の選手交代を通知する。
- 2) 主審から見えない位置で生じた反則を確認した時は、ハンドシグナルのみで主審に合図する。しかし、主審に判定を強要することはできない。

付則 I-2-(1)-3), 4)

- 1) タイムアウトや選手交代の時間や回数を、副審がコントロールするタイミングを明確にすることにより試合のスムーズな運営を行う。
- 2) 主審の判定権限のなかで、ラリー中の選手の位置取りによっては、主審から見えない場合がある。この場合、副審は反則を確認した時は、ハンドシグナルを主審に合図して主審の判定の補助をするが、主審がこれを判定しなかった場合には、そのハンドシグナルを即時に止める。

なお、主審はこの場合、自身の確認により判定を行う。

(4) 公式ハンドシグナル

1) 主審と副審のハンドシグナル

主審と副審は、公式ハンドシグナルを用いて、吹笛をした理由(反則の種類、または許可した試合中断の目的)を示さなければならない。

公式ハンドシグナルは、しばらくの間、示し続ける。もしもそのハンドシグナルを片方の手で示す場合は、反則や要求のあったチーム側の手を使わなければならない。

付則 II-1-(1)

主審と副審が吹笛をした場合の理由は、選手、チームが分るように必ず公式ハンドシグナルを用いて示すことを明確にした。

また、公式ハンドシグナルは、どちらのチームの反則や要求であったのか分るように、当該チーム側の手を使うことを明確にした。

2) 第2 図 主審と副審の公式ハンドシグナル

- ① 適用条項を修正した。
- ② ハンドシグナルを修正した。

(5) 字句と数値の修正を行った。

「相手方」を全て「相手」に修正した。